資料－３

参　考　資　料
（説明資料）

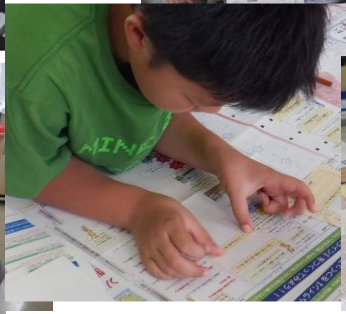
番匠川圏域の減災に係る取組み

■自分自身の防災行動計画表～マイ・タイムラインづくり～

○ 令和5年7月15日に佐伯市桝形区、藤原区において「マイ・タイムラインづくり」を開催
○ 佐伯河川国道事務所（8名）、大分県（1名）、佐伯市（2名）、河川協力団体「番匠川流域ネットワーク」（1名）による関係機関で連携して、地域住民40名（うち子供9名）を対象に行った
○ 関東地方整備局 下館河川事務所が考案したマイ・タイムライン普及ツール「逃げキッド」と解説ビデオを活用し、気候の変動、番匠川の洪水、流域治水、ハザードマップの見方、河川情報の取り方等を含めて取り組んだ

▲できたマイ・タイムラインを持って集合

▲結果報告



▲逃げキッドを活用して
マイ・タイムラインを検討

▲流域治水について紹介

■成果

○参加者からは「今まで防災行動を意識していなかったが、あらためて意識できた」「持ち帰って家族と話し合いたい」「避難に対して考えることができた」「家族で参加してわかりやすい資料で簡単にできた」などの意見があった

番匠川圏域の減災に係る取組み

■自分自身の防災行動計画表～マイ・タイムラインづくり～

○ 令和5年10月4日に佐伯市上野小学校（4年生14人）において「マイ・タイムラインづくり」を開催
○ 大分県、佐伯市、佐伯河川国道事務所の関係機関により連携して行った
○ マイ・タイムライン普及ツール「逃げキッド」と解説ビデオを活用し、気候の変動、番匠川の洪水、流域治水、ハザードマップの見方、河川情報の取り方等を含めて取り組んだ

▲講師は初挑戦でした

▲流域治水について紹介

▲逃げキッドを活用して
マイ・タイムラインを検討

▲地元ケーブルテレビ
の取材

▲非常勤職員もファシリテーター
として参画

◀取組みを終えて
感想を報告

洪水などに備えて
個人防災計画作り
佐伯市上野小4年生

【佐伯】国土交通省佐伯河川国道事務所と県、佐伯市は4日、市内弥生の上野小で、4年生を対象に個人防災計画・マイタイムライン作りをした。

番匠川流域治水プロジェクトの一つで洪水、浸水などの災害に備えて地域を知り、準備の大切さを伝えるのが目的。

児童14人が参加。同事務所職員が気温上昇、雨量増加といった気候変動や、番匠川流域で発生した洪水などについて説明。この後、児童はハザードマップと自身が暮らす地域を照らし合わせ、助言に耳を傾けながら避難場所やルート、事前に準備する物など自分や家族に合った防災計画を考えた。（安部亮）

ハザードマップで自分たちの住む地域を確認する児童ら

▲大分合同新聞に掲載

▲マイ・タイムラインできました

■成果

○参加者からは「マイ・タイムラインによって安心して避難ができると思った」「帰ってから家族と一緒に見返したい」「使ってみて見直ししていくことが大事だと思う」などの意見があった

作成年月：令和５年１月
最終改正：令和６年２月

【令和6年度試行版】

番匠川流域タイムライン

黒字：水位、気象情報、災害体制　●：情報の受け手

河川水位 流域警戒ステージ	状況	大分地方気象台	佐伯河川国道事務所	大分県	佐伯市	警察・消防・自衛隊	NTT・JR・NHK・FM佐伯	住民等
３日前準備 0	・３日後に台風が番匠川流域に影響する恐れ ・3日後に大雨が予想され番匠川流域に影響する恐れ	全般台風情報(進路予報) 台風に関する気象情報(随時) 防災メール 早期注意情報 台風(大雨)説明会 WEB会議ツールによる危機感の共有 ホットライン	WEB会議ツールによる危機感の共有 注意体制 北緯28度以北、東経126～134度の範囲にあり大分県域地方に接近しつつある場合	WEB会議ツールによる危機感の共有 ・台風情報の収集、市への提供（以降、随時）・事前放流の調整 ・防災態勢の確認（関係機関との連絡方法等）・市へ警戒態勢確保働きかけ	WEB会議ツールによる危機感の共有 ●（ホットライン）			
１日前準備 0	・１日後に台風が番匠川流域に影響する恐れ ・１日後に大雨が予想され番匠川流域に影響する恐れ	全般台風情報(進路予報) 台風に関する気象情報(随時) 防災メール 早期注意情報 台風(大雨)説明会 WEB会議ツールによる危機感の共有 暴風警報、暴風特別警報※ ホットライン	WEB会議ツールによる危機感の共有 注意体制 警報が発表された場合	・市との情報収集体制の確認 ・災害対応体制確立・市へ災害対応体制確立の働きかけ ・県民への呼びかけ（防災アプリ等） ・市へ情報収集のため職員派遣 ・事前放流の調整 ・災害支援システムによる情報収集 WEB会議ツールによる危機感の共有 災害対策連絡室設置 警報が発表された場合	WEB会議ツールによる危機感の共有 災害体制連絡室設置 警報が発表された場合 ●（ホットライン）			
水防団待機水位 1	・水防団待機水位超過 《番匠川》 小川橋水位観測所２.６０m 番匠橋水位観測所２.５０m 《久留須川》 間庭橋水位観測所２.１０m 個別対応(上灘地区)箇所 避難判断水位超過 《堅田川》 堅田橋水位観測所３.４0m	・大分県気象情報(線状降水帯による大雨の可能性に言及) ・県へのJETT派遣 ホットライン	水防警報(待機)発表 水防警報(準備)発表 ホットライン（上灘地区）	● ・市への警戒態勢確保要請 ・被害状況等の把握 ●	● ● ●（ホットライン） ●（ホットライン（上灘地区）） 浸水が想定される地区【警戒レベル３】高齢者等避難発令	● ●		・高齢者等が避難開始
氾濫注意水位 2	・氾濫注意水位超過 《番匠川》 小川橋水位観測所３.３０m ※水防警報 番匠橋水位観測所３.５０m 《久留須川》 間庭橋水位観測所３.３０m 《堅田川》※水位周知 堅田橋水位観測所３.５０m 《井崎川》※水位周知 蕨野橋水位観測所３.２０m 個別対応(波寄席荒瀬地区)箇所 避難判断水位超過 《番匠川》 番匠橋水位観測所4.10m 個別対応(上灘地区)箇所 氾濫危険水位超過 《堅田川》 堅田橋水位観測所4.30m	洪水予報(氾濫注意情報)発表 ホットライン ・大雨注意報※ ・洪水注意報※ ・キキクル(黄色)※ ・大分県気象情報	洪水予報(氾濫注意情報)発表 水位周知(氾濫注意情報)発表 水防警報(出動)発表 警戒体制 氾濫注意水位を超過した場合 水防警報(警戒)発表 越水・漏水・侵食等により災害の恐れがある場合 ホットライン（波寄荒瀬地区） ホットライン（上灘地区） ホットライン（避難判断水位到達の恐れ）	● ● ● ● ・被害状況等の把握 ・水防警報（出動）発表	● ● ● ●（ホットライン） ● ●（ホットライン（波寄荒瀬地区）） 浸水が想定される地区【警戒レベル３】高齢者等避難発令 ●（ホットライン（上灘地区）） 浸水が想定される地区【警戒レベル４】避難指示発令 ●（ホットライン（避難判断水位到達の恐れ））	● ● ● ●	● ●	・高齢者等が避難開始 ・住民が避難開始
避難判断水位 3	・避難判断水位超過 《番匠川》 番匠橋水位観測所４.９０m 《久留須川》※水位周知 間庭橋水位観測所４.５０m 《堅田川》※水位周知 堅田橋水位観測所４.５０m 《井崎川》※水位周知 蕨野橋水位観測所５.１０m 個別対応(波寄席荒瀬地区)箇所 氾濫危険水位超過 《番匠川》 番匠橋水位観測所５.00m	洪水予報(氾濫警戒情報)発表 ホットライン ・大雨警報※ ・洪水警報※ ・キキクル(赤色)※ ・大分県気象情報	洪水予報(氾濫警戒情報)発表 水位周知(氾濫警戒情報)発表 ホットライン（波寄荒瀬地区）	● ● 災害警戒本部設置 警報が発令され、かつ、相当の被害が発生し、又は発生する恐れのあるの場合 ・高齢者等避難の発令状況確認 ・報道機関等への避難判断水位超過情報発表 ・被害状況等の把握 ・水防警報（警戒）発表 市への情報連絡員の派遣	● ● ●（ホットライン） 災害警戒本部設置 災害応急対策を実施する必要があるとき 浸水が想定される地区【警戒レベル３】高齢者等避難発令 災害発生の恐れが高いなど、状況によって避難判断水位到達前に高齢者等避難を発令する場合がある ●（ホットライン（波寄荒瀬地区）） 浸水が想定される地区【警戒レベル４】避難指示発令	● ●	● ●	・高齢者等が避難開始 ・住民が避難開始
4	3時間先までの予測水位が氾濫する可能性のある水位に到達する場合	洪水予報(氾濫危険情報)発表	洪水予報(氾濫危険情報)発表 緊急速報メール ホットライン（氾濫危険水位到達の恐れ）	●	● ●（ホットライン（氾濫危険水位到達の恐れ））	●	●	・住民が避難開始
氾濫危険水位 4	・氾濫危険水位超過 《番匠川》 番匠橋水位観測所５.８０m 《久留須川》※水位周知 間庭橋水位観測所５.５０m 《堅田川》※水位周知 堅田橋水位観測所５.３０m 《井崎川》※水位周知 蕨野橋水位観測所５.６０m ・計画高水位(HWL)超過 《番匠川》 番匠橋水位観測所6.37m 《堅田川》 堅田橋水位観測所6.34m 《井崎川》 蕨野橋水位観測所５.89m	洪水予報(氾濫危険情報)発表 ホットライン ・顕著な大雨に関する気象情報(線状降水帯発生)※ ・記録的短時間大雨情報発表※ ・土砂災害警戒情報※ ・キキクル(紫色)※ ・大分県気象情報	洪水予報(氾濫危険情報)発表 水位周知(氾濫危険情報)発表 緊急速報メール 非常体制 氾濫危険水位を超過した場合 リエゾンを市へ派遣 ホットライン（氾濫危険水位突破・排水ポンプ場運転停止の恐れ） ホットライン（計画高水位突破・排水ポンプ場の運転停止要請）	● ● 災害対策本部設置 ①特別警報が発表された場合 ②警報が発表され、かつ、相当の被害が発生し、又は発生するおそれがある場合 ・避難指示の発令状況確認 ・災害の発生の恐れ段階での応援の検討（県内応援・緊急消防援助隊） ・報道機関等への氾濫危険水位超過情報発表 ・被害状況等の把握	● ● ●（ホットライン） 災害対策本部設置 大規模な被害が発生し、又は発生するおそれがあるとき 浸水が想定される地区【警戒レベル４】避難指示発令 災害発生の恐れが高いなど、状況によって氾濫危険水位到達前に避難指示を発令する場合がある ●（ホットライン（氾濫危険水位突破・排水ポンプ場運転停止の恐れ）） ●（ホットライン（計画高水位突破・排水ポンプ場の運転停止要請）） 排水ポンプ場の操作人へポンプ運転停止指示	● ●	● ● 運行停止の周知(JR)	・住民が避難開始 ・住民が避難開始
氾濫発生 5	・氾濫発生	洪水予報(氾濫発生情報)発表 ホットライン ・大雨特別警報※ ・キキクル（黒色）※ ・大分県気象情報 ・被災市へのJETT派遣	洪水予報(氾濫発生情報)発表 緊急速報メール ホットライン（氾濫発生の伝達） 堤防決壊の発生の伝達と今後の河川状況など助言 現地対策本部設置 ●（TEC-FORCEの要請） TEC-FORCEの派遣 緊急復旧・堤防調査委員会設置	● ・緊急安全確保の発令状況確認 ・報道機関等への氾濫発生情報発表 ・緊急消防援助隊の要請 ・被害状況等の確認 ● 自衛隊へ災害派遣要請の検討・実施	● ●（ホットライン） ●（ホットライン（氾濫発生の伝達）） 【警戒レベル５】緊急安全確保 氾濫が発生した場合に住民に対して命を守る行動を促す 自衛隊への災害派遣要請の要求 TEC-FORCEの要請	● ●【自衛隊】	●	緊急安全確保措置 緊急安全確保措置

※気象台の基準により発表するため、より早いタイミングで発表することが多い。

※流域タイムラインは（最終改正年月）時点の案であり、今後の災害や訓練等を通じて、随時、改善や見直しを行うことを前提としている。

線状降水帯による大雨について

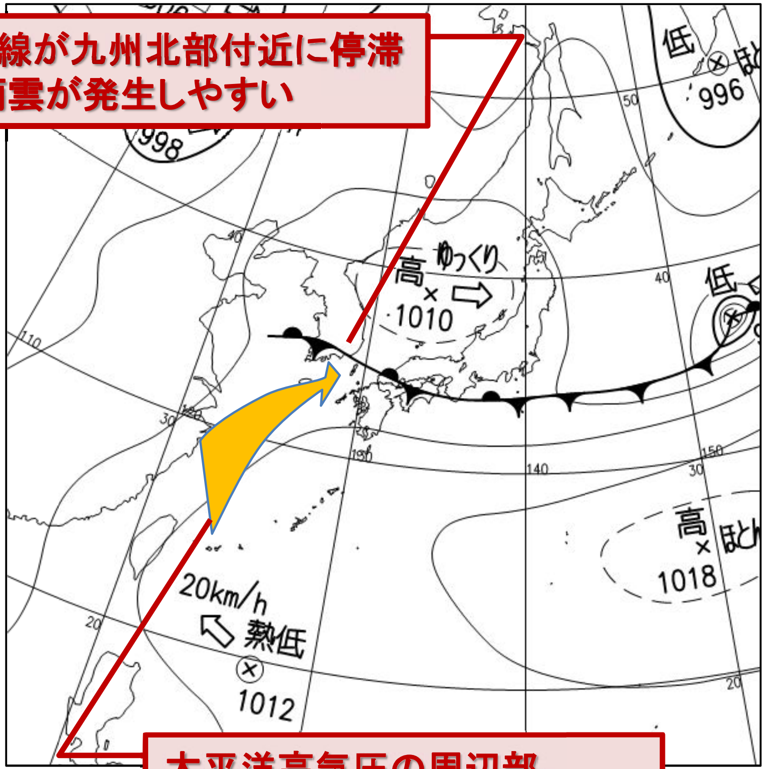
半日程度前から**府県単位**での呼びかけを開始します

令和６年5月22日

大分地方気象台

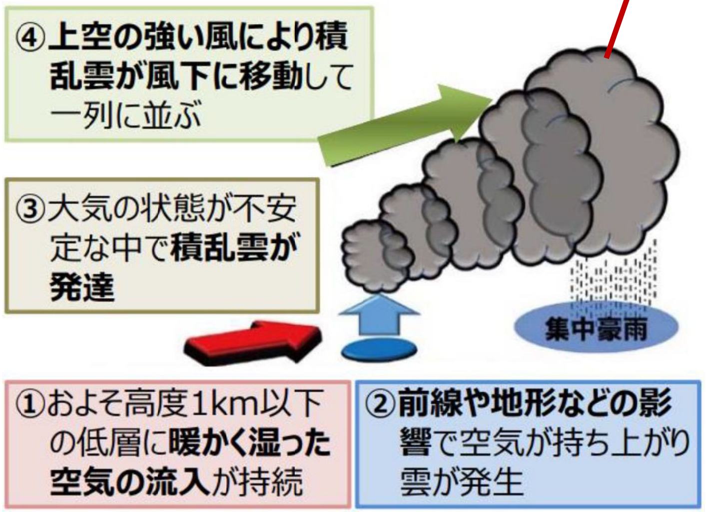
線状降水帯とは

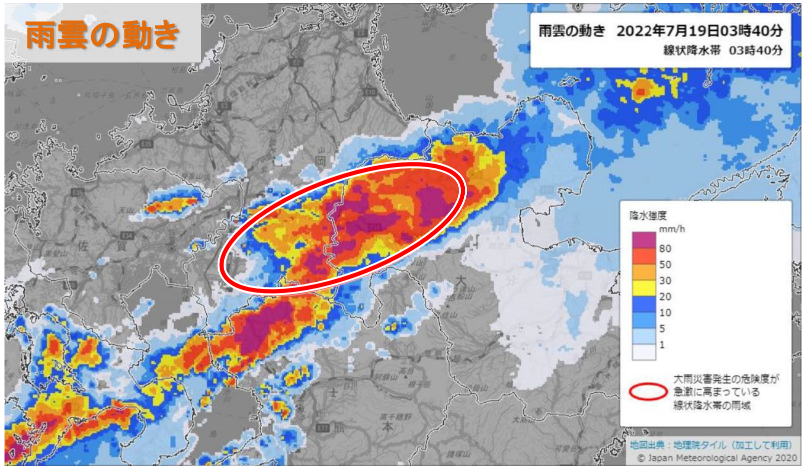
梅雨前線が九州北部付近に停滞
→雨雲が発生しやすい



太平洋高気圧の周辺部
→暖かく湿った空気が流入

線状降水帯が発生
→同じような場所で大雨が続く





- ✓ 長さ数百km、幅数十km
- ✓ 数時間停滞

気象庁 2

平成29年以降の主な九州の気象災害

赤色：大分県に大雨特別警報を発表した事例

⑧の鹿児島県を除く全てが線状降水帯によるもの

日田市小野地区土砂災害：九州地方整備局提供

久留米市田主丸町の土石流：九州地方整備局提供

球磨川の氾濫：九州地方整備局提供

大牟田市内の浸水：大牟田市提供

No	気象災害事例 特別警報を発表した県
⑨	令和5年7月前線による大雨 福岡・大分
⑧	令和4年台風第14号 鹿児島・宮崎
⑦	令和3年8月前線による大雨 福岡・佐賀・長崎
⑥	令和3年7月前線による大雨 熊本・宮崎・鹿児島
⑤	令和2年7月豪雨 福岡・佐賀・長崎・熊本・鹿児島
④	令和元年台風第5号（土砂災害） 長崎県（五島・対馬）
③	令和元年8月前線による大雨 福岡・佐賀・長崎
②	平成30年7月豪雨 福岡・佐賀・長崎
①	平成29年7月九州北部豪雨 福岡・大分

線状降水帯の予測精度向上に向けた取組(情報の改善)

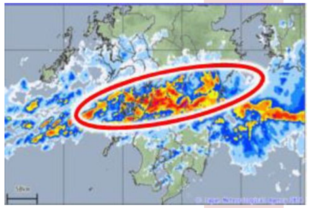
観測や予測の強化の成果を順次反映し、令和４年６月から、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを、令和５年５月から、「顕著な大雨に関する気象情報」（線状降水帯の発生をお知らせする情報）をこれまでより最大30分程度前倒しして発表する運用を開始。
令和６年５月下旬からは、令和４年度から開始した半日程度前からの呼びかけを府県単位で実施。

線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

「明るいうちから早めの避難」 ･･･ 段階的に**対象地域を狭めていく**

今年度の新たな運用

令和３(2021)年
線状降水帯の発生をお知らせする情報
(令和3年6月提供開始)



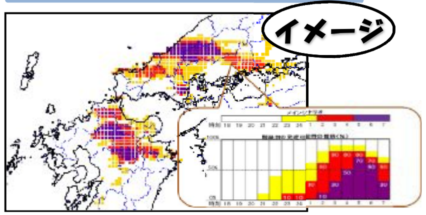
線状降水帯の雨域を楕円で表示

令和４(2022)年～
広域で半日前から予測
(令和4年6月提供開始)

令和６(2024)年～
府県単位で半日前から予測

次期静止気象衛星
（令和11年度運用開始予定）

令和11(2029)年～
市町村単位で危険度の把握が可能な危険度分布形式の情報を半日前から提供



令和５(2023)年～
最大30分程度前倒しして発表
(令和5年5月提供開始)

令和８(2026)年～
2～3時間前を目標に発表

線状降水帯の雨域を表示

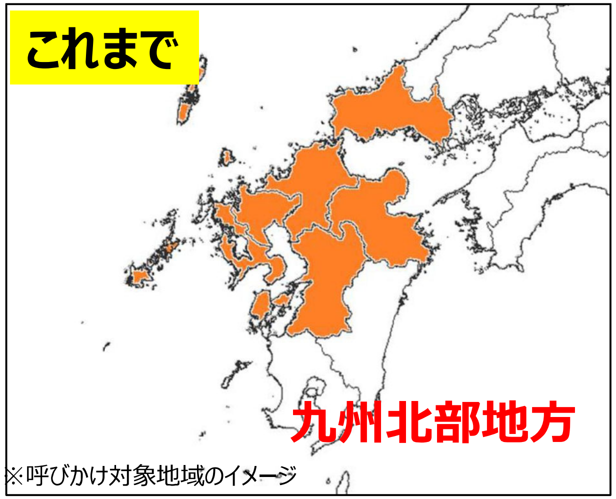
「迫りくる危険から直ちに避難」 ･･･ 段階的に**情報の発表を早めていく**

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

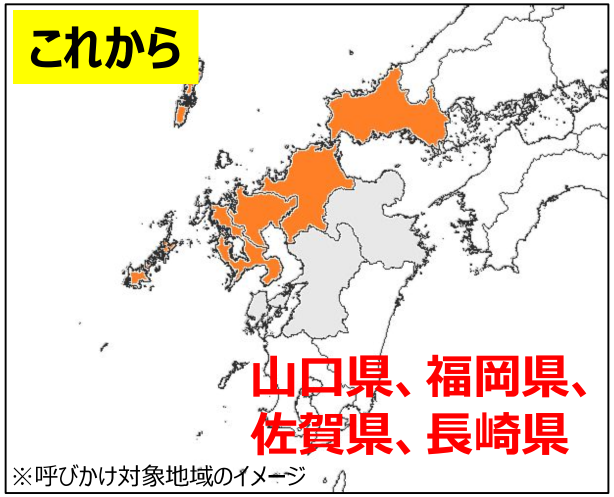
国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく

気象庁 Japan Meteorological Agency 4

令和６年から開始する府県単位での呼びかけ（地方／府県気象情報）



対象地域を絞り込んで発表



地方気象情報

これまで	これから
大雨に関する**九州北部地方**気象情報　第○号 ○年○月○日○○時○○分　福岡管区気象台発表 ＜見出し＞ **九州北部地方では、○日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。** ＜本文＞ …（中略）…	大雨に関する**九州北部地方**気象情報　第○号 ○年○月○日○○時○○分　福岡管区気象台発表 ＜見出し＞ **山口県、福岡県、佐賀県、長崎県では、○日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。** ＜本文＞ …（中略）…

対象とならない 大分県、熊本県では、府県気象情報においての呼びかけをしない。

府県気象情報

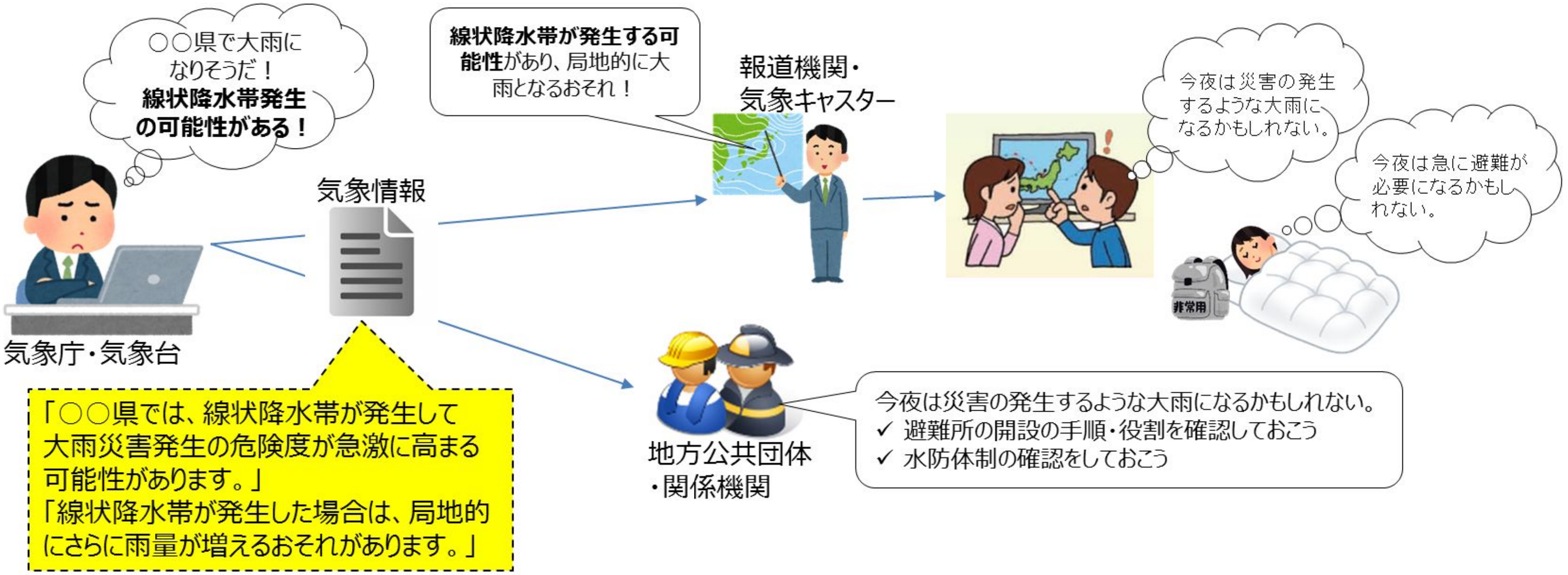
これまで	これから
大雨に関する**福岡県**気象情報　第○号 ○年○月○日○○時○○分　福岡管区気象台発表 ＜見出し＞ **九州北部地方では、○日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。** ＜本文＞ …（中略）…	大雨に関する**福岡県**気象情報　第○号 ○年○月○日○○時○○分　福岡管区気象台発表 ＜見出し＞ **福岡県では、○日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。** ＜本文＞ …（中略）…

※発表する情報の電文フォーマットは変わりません。

呼びかけが行われた時の対応例

府県単位で呼びかけを行いますが、
これまでと対応を変える必要はありません。

- 線状降水帯が発生すると、大雨災害発生の危険度が急激に高まることがあるため、心構えを一段高めていただくことを目的としています。この呼びかけだけで避難を促すわけではなく、ほかの大雨に関する情報と合わせてご活用ください。
- **市町村**の防災担当の皆さまには、避難所開設の手順や水防体制の確認等、災害に備えていただくことが考えられます。
- **住民**の方々には、大雨災害に対する危機感を早めにもっていただき、ハザードマップや避難所・避難経路の確認等を行っていただくことが考えられます 。



線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけや「顕著な大雨に関する気象情報」といった線状降水帯に関する情報だけでなく、大雨警報やキキクル（危険度分布）等、段階的に発表する防災気象情報全体を適切に活用することが重要です。

大雨時に段階的に発表される防災気象情報

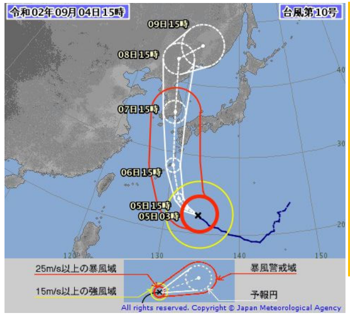
気象庁は様々な防災気象情報を発表しており、線状降水帯に関する情報は、この中のひとつ。
この情報だけに着目するのではなく、段階的に発表される防災気象情報全体を活用いただくことが重要。

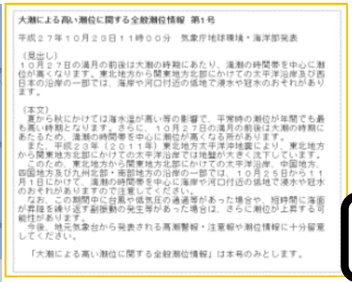
先行時間

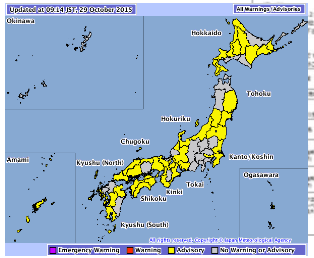
1週間前　5日前　3日前　12時間前　3時間前　1時間前　現象発生

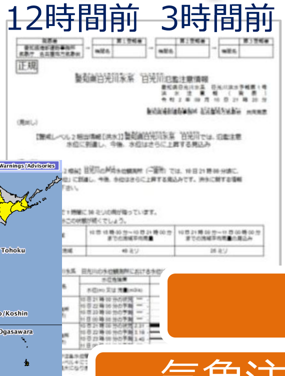
随時に発表

- 記録的短時間大雨情報
- 顕著な大雨に関する気象情報
- 土砂災害警戒情報
- 指定河川洪水予報
- 気象注意報・警報・特別警報
- （大雨・暴風等に関する）○○県気象情報
- 台風情報（進路・強度予報）

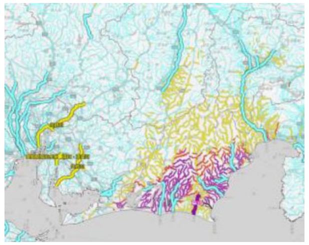
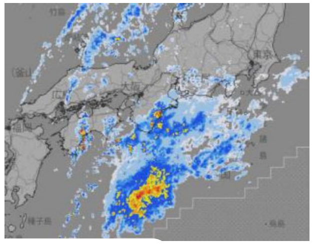








線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけ

定期的に発表

- 週間天気予報・天気予報
- 早期注意情報（警報級の可能性）
- 降水短時間予報
- ナウキャスト（降水・雷・竜巻）
- キキクル（土砂災害・浸水害・洪水害）